

# 【高等学校「情報Ⅰ」コミュニケーションと情報デザイン】①

富山県教育委員会

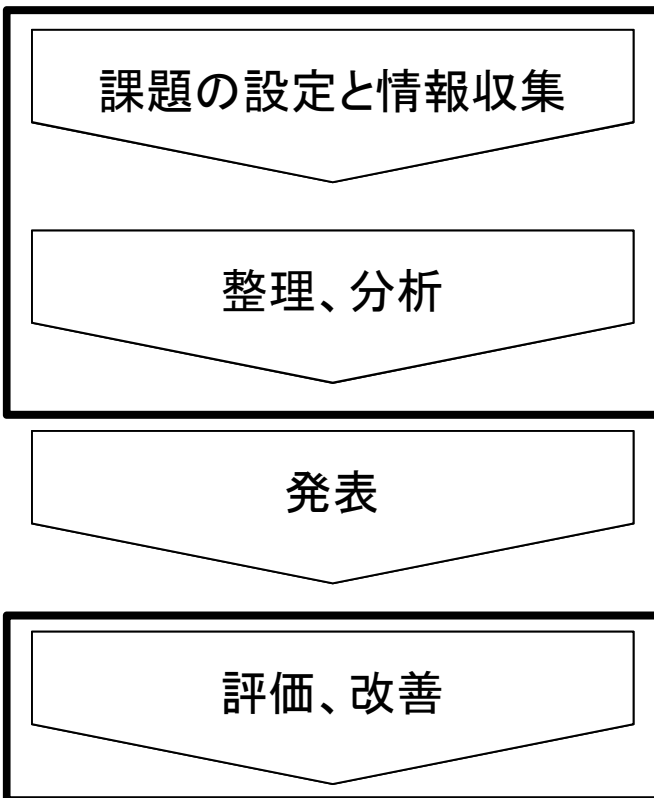
## 学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

- ・生徒自身の体験や経験を基に、コンテンツを作成し、発表を行う。
- ・自己評価及び他者評価によって、改善の方法を考える。

## 評価規準

- 〈知識・技能〉コンテンツ制作の一連の過程について理解している。
- 〈思考・判断・表現〉目的や受け手の状況に応じた情報デザインを考えている。
- 〈主体的に学習に取り組む態度〉コミュニケーションの目的や伝える情報を明確にし、粘り強く取り組もうとしている。  
一連の活動を振り返ることを通して、自らの学習を調整しようとしている。

## 教科等横断的な視点での取組



### 【総合的な学習の時間と情報Ⅰの連携】

- 〈課題の設定と情報収集〉
  - ・目的と情報の受け手を明確にし、必要な情報を考察し、それに基づいた情報を収集
- 〈整理、分析〉
  - ・収集した情報を基に、伝えるべき情報をその表現方法を考察し、発表内容や資料を作成
- 〈発表〉
  - ・作成した資料を用いて発表
- 〈評価、改善〉
  - ・目的と受け手に応じた発表ができたか、自己評価及び他者評価を実施
  - ・評価を参考に、発表内容と資料の改善を実施
  - ・自身や他者の発表内容をふまえ、自身の進路や在り方生き方について考える

【図①】



【図②】



## 【課題の設定と情報収集】

・総合的な探究の時間での進路探究学習にて、企業見学やインターンシップでの体験を実施する前に、あらかじめコンテンツ作成を行うことを知り、またそのために必要な情報を考えておくことで、目的意識を明確にして進路探究学習に取り組むことができる。

(情報Ⅰ→総合的な探究の時間)

## 【整理、分析】

・自身の体験によって得た情報を基に、発表内容と資料の作成に取り組むことにより、学習意欲を高めるとともに、情報デザインについて深く考えることができる。

(総合的な探究の時間→情報Ⅰ)

## 【評価、改善】

・発表内容や資料について、自己評価や他者評価に取り組むことにより、目的と受け手に応じたよりよい発表内容に向けた改善を行うことができる。

・他者の発表を聞くことで、企業や大学の意義を知り、自身の生き方在り方を考えることにつなげることができる。

(情報Ⅰ→総合的な探究の時間)

- 総合的な探究の時間と情報Ⅰの連携により、それぞれの学びを結び付けたり深め合ったりすることができる。
- 体験や経験によって得た情報を基にコンテンツの制作を行うことにより、その情報の意味や重要度を生徒自身が真に理解した状態で取り組むことができるため、課題意識を高くもって学ぶことができる。
- 発表の目的や受け手を常に意識してコンテンツの制作を行うことにより、情報デザインの考え方や方法について深く理解し、表現することができる。
- 総合的な探究の時間と情報Ⅰそれぞれの学習目標と評価方法を明確にし、授業担当者全員で共有しながら進めていくことが重要である。